

事務事業評価表 平成25年度

政策 安全で快適な都市生活の充実
 施策 交通環境の充実
 基本事業 安全で快適な道路づくり

事業名 **江別駅跨線人道橋整備工事 (駅周辺バリアフリー化)**

[0878]

部名	建設部	事業開始年度	平成22年度	実施計画事業認定	非対象
課名	都市建設課	事業終了年度	平成27年度	会計区分	一般会計

事務事業の目的と成果	
対象	<p>(誰、何に対して事業を行うのか)</p> <p>江別駅跨線人道橋</p>
意図	<p>(この事業によって対象をどのような状態にしたいのか)</p> <p>バリアフリーに対応した人道橋の架換えを行うことで高齢者等の歩行者や自転車が安全で快適に通行できるようにする。</p>
手段	<p>(事務事業の内容、やり方、手段)</p> <p>JR江別駅と上江別地区を結んでいる「江別駅跨線人道橋」の架換えを行うため、予備設計、実施設計、下部工、工場製作、上部工、周辺環境整備の6項目を行う</p>

事業量・コスト指標の推移						
区分		単位	22年度実績	23年度実績	24年度実績	25年度当初
対象指標1	整備対象人道橋数	橋	1	1	1	1
対象指標2						
活動指標1	当該年度整備対象項目数	項目	1	1	2	1
活動指標2						
成果指標1	整備済み項目の割合 【平成24年度からは「整備済み状況の割合」に変更】	%	17	33	50	83
成果指標2						
単位コスト指標						
事業費計 (A)		千円	8,995	25,309	115,286	192,078
正職員人件費 (B)		千円	4,433	4,816	7,615	7,653
総事業費 (A) + (B)		千円	13,428	30,125	122,901	199,731

費用内訳	
24年度	委託料 2,425千円、工事請負費 45,063千円、負担金 補助及び交付金 67,798千円

事業を取り巻く環境変化

事業開始背景	本橋はJR江別駅へ向かう通学、通勤者が多く、また隣接して「えべつみらいビル」、福祉施設等が建設され、益々利用が見込まれているところである。しかし昭和49年に架設した現在の人道橋は、老朽化が進行しており、またバリアフリー化もされていなく、障がい者、高齢者を始めとする歩行者の通行に支障をきたしていることから、早急に架換えを行い、利用者の安全で快適な通行空間を確保するものです。	事業を取り巻く環境変化	
--------	---	-------------	--

24年度の実績による事業課の評価（7月時点）

(1)税金を使って達成する目的（対象と意図）ですか？市の役割や守備範囲にあった目的ですか？

義務的事務事業

妥当である

妥当性が低い

理由
・
根拠は？

道路管理者である市が実施することが妥当であるため。

(2)上位の基本事業への貢献度は大きいですか？

貢献度大きい

貢献度ふつう

貢献度小さい

基礎的事務事業

理由
・
根拠は？

バリアフリーに対応した人道橋の架換えを行うことで高齢者等の歩行者や自転車の安全快適な交通環境が確保できるため。

(3)計画どおりに成果はあがっていますか？計画どおりに成果がでていない理由、でていない理由は何ですか？

あがっている

どちらかといえばあがっている

あがらない

理由
・
根拠は？

計画に沿って事業が進められているため。

(4)成果が向上する余地（可能性）は、ありますか？その理由は何ですか？

成果向上余地 大

成果向上余地 中

成果向上余地 小・なし

理由
・
根拠は？

短期間で橋梁架換えを進める予定であり、早期に安全で快適な歩行者空間を確保できる。

(5)現状の成果を落とさずにコスト（予算＋所要時間）を削減する新たな方法はありませんか？（受益者負担含む）

ある

ない

理由
・
根拠は？

北海道積算システムの導入により事務処理の迅速化を図っており、また設計単価等についても統一単価を使用しており削減は難しい。